重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	健康づくり・健康維持のための取組に力が入れられている	
施策名	市民の健康づくりを支援する	No.2

年度	平成28年度
責任部長	市民健康部長
主担当課長	健康づくり課長
関係課	公園緑地課、施設管理課、スポーツ課、保険年金課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
健康維持のために何か取り組んでいる人の割合（%）		↗	49.5	48.6	49.6	49.2	49.1	50.9	57.5
			50.9	55.8	52.9	55.5	56.5		64.3
健康づくりを広める機会（場）や人（推進員など）の数	①イベント、教室の数（件）	↗	29	41	32	21	24	24	44
			24	33	43	49	52		55
	②推進員の人数（人）		225	253	268	208	221	235	254
			235	238	238	242	226		275
住民検診の受診率（%）		↗	37.8	40.5	34.7	39.3	39.7	40.4	45.0
			40.4	37.6	36.8	36.9	37.4		53.2

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

健康志向の高まりにより市民や民間業者での健康に関する取組みが増加してきている。
高齢者人口の増加に伴い、医療費の占める割合が増加し続けている中で、健康づくりのための対策が求められている。
そのため、健康づくりを広める機会やその役割を担う人材を養成することにより、市民の健康増進や介護予防に努めている。
また、住民検診を実施することにより、疾病の早期発見、早期治療に繋げ、市民の健康維持及び医療費の抑制に努めている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	健康維持に取り組んでいる人の割合は年度により増減しているものの、増加傾向にある。 健康づくりを広める機会（場）は増えたが、健康づくりを広める人（推進員など）の増加に繋がっていない。 また、住民検診の受診率については、平成24年度に乳がん検診の受診方法を変更したことにより減少したが、平成27年度以降は微増で推移している。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）		長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）
自分の健康維持、管理の意識が高まっている		年齢・体力に合った健康づくりや健康維持のための場や機会が多くある	健康づくりや維持のためのサポーターが多くいる
妊産婦保健指導事業	国民健康保険特定保健指導事業	エコハウス138健康増進事業	スポーツ推進委員研修事業
妊産婦歯科健康診査事業	市民健康まつり開催事業	学校体育施設開放事業	健康づくりサポーター・食生活改善推進員支援事業
乳幼児健康診査事業	成人健康相談事業	生涯スポーツ振興事業	
育児相談事業	健康教室（成人）事業	地域スポーツ振興事業	
こんにちは赤ちゃん訪問事業	健康マイレージ事業	ウォーキング講習会開催事業	
健康教室（母子）事業	成人訪問指導事業	いちのみやタワーパークマラソン事業	
がん検診事業	健康体操教室事業	すこやか健康づくり公園整備事業	
人間ドック事業	骨粗しょう症検査事業		
国民健康保険特定健康診査事業	予防接種推進事業		
後期高齢者医療健康診査受託事業	結核予防推進事業		
女性の健康診査事業	健康増進情報提供事業		
歯科健康診査事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	健康維持のために何かに取り組んでいる人の割合は、目標値には達していないが徐々に増加している。 健康づくりを広める機会（場）を、健康づくりを広める人（推進員）の増加に繋げる必要がある。 また、住民検診の受診率については目標値を大きく下回っているため、特に受診率が低いがん検診の受診勧奨が必要である。
次年度の改善計画	健康づくりを広める人（推進員）の養成・活動の支援を引き続き行う。 がん検診の受診率を上げるため、健康ひろば（市広報号外）及び特定健診案内通知によるがん検診の受診勧奨を継続するとともに、がん検診初年度の対象となる新40歳の方への個別受診勧奨通知を平成29年度も継続して行う。

＊＊＊